

台湾産食糞コガネムシ解説〔1〕

益本仁雄

A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa〔1〕

By Kimio MASUMOTO

(Received Sept. 25, 1975; Accepted Oct. 30, 1975)

台湾の面積は九州にほぼ等しいが昆虫相は日本全土のその数倍といわれるほど複雑で、甲虫類とりわけ食糞コガネムシについても例外ではない。

筆者は1971年以来9回にわたりこの地を訪れ、主として食糞コガネムシの調査を行なった。また、1975年8月には中村慎吾氏のご紹介で台湾省農業試験所（旧台北大学）の標本を検査する機会をもつことができた。

この報文は調査を通じて得られた事実と、従来台湾から記録されている種の再検討を中心に解説を試みたものである。

本文をまとめるにあたり、野村鎮氏、中根猛彦博士には種々のご教示を賜わった。また、三宅義一、石田正明、酒井香、横山創、秋山黄洋、露木繁雄の諸氏から資料等のご提供をいただいた。さらに中村慎吾、朱耀沂、邱瑞珍、陳維寿、林茂成、杜欽龍、杜欽明、今枝真弓、張秀香、黃綱各位のご協力があった。これらの諸氏に対し深甚なる謝意を表したい。

〔注〕1) 和名に*印が付いているものは新称、または改称。

2) 解説中、三輪の記録として地名があげられているものは1931年発表のカタログからの引用。

3) 戦前の記録の中には、分布に疑問がもたれるものが少なくない。それはある理由で他地域の標本が混入したためである。ひとたび記録に載ると、分布していないという立証はきわめてむずかしくなる。そこで筆者は未確認種について学名の頭に×印を付けることとした。

Species marked* are found in record from Formosa but the author was not able to confirm their inhabitation. Parts of pre-War records are unreliable.

Present address: 890-30, Kamigochō, Totsuka-ku, Yokohama city, Kanagawa Pref. (〒247)

I 台湾産食糞コガネムシ類の解説

Trogidae コブスジコガネ科

野村(1974)によると従来 *T. (Omorgus) obscurus* と記録されていたものは *T. (O.) chinensis* であり、*T. (O.) chinensis* とされていたものは *T. (O.) pauliani* であるという。したがって三輪・中条(1939)および加藤(1933)のカタログや図鑑はそれぞれ読み替えの必要がある。また、野村は1973年に *T. (s. str.) formosanus* を発表している。この他、加藤はコガタコブスジコガネなるものを図示しているが、台湾産か否かの疑問があり、また、真の *Trox* でないかもしれない。

Trox (Omorgus) pauliani HAAF

オオコブスジコガネ*

14mmにも達する大型コブスジコガネである。(写真1) 墾丁で得られている。三輪は *T. (O.) chinensis* として卑南、恒春、澎湖等を記録している。

T. (O.) chinensis BOH. オオコブスジコガネ

墾丁で採集、三輪は *T. (O.) obscurus* として埔里を記録している。(写真2)

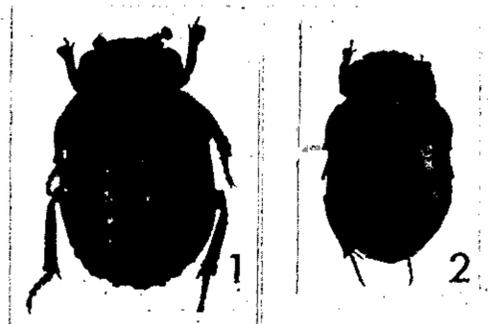


写真1 *Trox (Omorgus) pauliani* HAAF

写真2 *T. (O.) chinensis* BOH.

T. (s. str.) formosanus NOM.

タカサゴコブスジコガネ*

本種は、*T. (s. str.) opacotuberculatus* に似るが、上翅の瘤起は非常にこまかい淡褐色の剛毛を装い、点列列は両側に顆粒を具えないなどの点で区別できるといふ。霧社から記録された。

T. (s. str.) opacotuberculatus MOTS.

ヒメコブスジコガネ

奮起湖で採集されている他、三輪は阿里山、埔里などを記録している。

**T. (s. str.) scaber* (L.) チビコブスジコガネ
三輪は六亀、Hokko を記録しているが未確認。

Geotrupidae センチコガネ科

戦前の記録の中には分布に疑問を持たれるものが少なくない。(前ページ脚注参照)なお、戦後この地から数種の新種が発表されている。

1. Bolbocerini

野村が1973年に1新種を発表しているが、それ以外の種の最近の記録を見ない。

Bolbocerosoma kiyoyamai NOM.

キヨヤマセンチコガネ*

奮起湖から得られたもので体長15.5mm、上面がまったく黒色のセンチコガネである。

以下に述べる各種は三輪が記録し、一部は加藤の図鑑にも示されているが、分布が確認できなかったもので、中には台湾産でないと思われるものも含まれている。

**Bolbocerosoma nigroplagiatum* (WATERH.)

ムネアカセンチコガネ

記録：台北(三輪)

**Bolbelasemus coreanus* (KOL.)

トビイロセンチコガネ

記録：甲仙埔、埔里(三輪) (図一加藤)

**Bolboceras calanus* WEST.

オオクリイロセンチコガネ

記録：基隆(三輪) (図一加藤)

**Bolboceras quadridens* (F.)

トゲムネセンチコガネ

記録：六亀(三輪) (図一加藤) 農業試験所所蔵標本には素木のラベルがつけられていた。

Bolbotypes davidi FRM. エグリセンチコガネ

記録：南投、鳳凰山(三輪)、5月三輪のラベルであ

った。(同試験所)

2. Geotrupini

3種の分布が確認されている。加藤は *Enoplotrupes* に属する1種を (*Geotrupes* として) 図示しているが、この種の分布は疑わしい。

Geotrupes (Phelotrupes) substriatellus FRM.

クロセンチコガネ

おもに山地に見られる。黒色で光沢がなく上翅の条溝が痕跡的である点で他と区別される。♂の前胸背前縁部は単純、♀では中央がわずかに突出し浅い溝を有する。奮起湖、梅峰、南山溪などで得られているほか、三輪は阿里山、花蓮港、Nôkô, を記録。(写真3)



写真3 *G. (P.) substriatellus* FRM. a-♂ b-♀

G. (P.) formosanus MIWA タイワンセンチコガネ
日本で得られる *G. (P.) laevistriatus* の亜種として

記載されたが、これとは体幅があり前胸背前縁中央がわずかに突出し、浅い溝を有することで区別がつく。また、前種とは上面に光沢があり、上翅溝が明瞭な点で判別は容易。奮起湖、南山溪上流など山地で得られる。三輪は阿里山、埔里などを記録。(写真4)



写真4 *G. (P.) formosanus* MIWA (♀)

G. (P.) insulana HOWDEN

タカサゴセンチコガネ*

前種に似るが前胸背前縁中央附近に明らかなV字型の溝を具える。奮起湖などで採集されている。

**Enoplotrupes (s. str.) sharpi* JORD. et ROTHSC.
ツノセンチコガネ

加藤は本種を *Geotrupes sharpi* FRM. としている。

Hybosoridae アツバコガネ科

本邦と共通種を加え野村は別属1種を発表している。また加藤は *Orphnus impress* WEST. なるものを図で示しているが分布は疑わしく、野村氏によると万一、分布しているとすれば、*O. cribratellus* FRM. であろうといわれる。

Phaeochrous emarginatus CAST.

フチトリアツバコガネ

各地にきわめて普通に見られ、腐肉を好み燈火に飛来する。三輪らも記録。

Phaeochroops taiwanus NOM.

タイワンアツバコガネ*

前胸背が小さく上翅は前方に向かい狭まっており、上翅にやや長毛をまばらに装っているのが容易に区別がつく。奮起湖で得られている。

Scarabaeidae コガネムシ科

Ochodaeinae アカマダラセンチコガネ亜科

この亜科の記録はいずれも *Ochodaeus* に属する。加藤が *Ochodaeus* sp. ヒメアカマダラセンチコガネとして図示しているものは台湾産か否か明らかでなくまた、別属の可能性もある。

黒沢(1968)に従い台湾産の *Ochodaeus* を分けるとおよそ次のようになる。

台湾産 *Ochodaeus* の検索

- 1(2) 短頭(長さ:幅=1:1.35), 頭楯は両眼間でわずかにのみ突出。 *asahinai* Y. KUR.
- 2(1) 頭部はほぼ長幅同等またはわずかに長い, 頭楯は突出する。 .
- 3(6) 前胸背は褐~黄色がかり, 大小の基部に達する紋があり, 時に両側に小紋を具える。
- 4(5) 体色は暗赤褐色(暗い赤みがかった褐色), 前胸背板面の紋はより大きいに変化ある。頭楯は強く突出。後頭は広くえぐられる。 *formosanus* Y. KUR.
- 5(4) 体色はより明るく黄土色~黄褐色; 前胸背板面の紋はより小さく, 頭楯はそれほど突出せず, また後頭はえぐられない。 *xanthomelas* (WIED.)
- 6(3) 前胸背板板面は黒色, 両側にははば広く淡黄土色に縁どられその中央に小点紋あり。前頭は両眼前縁間の横隆起により頭頂および後頭と界される。そしてその隆起は中央で広く中断される。 *maculatus interruptus* Y. KUR.

Ochodaeus asahinai Y. KUR.

アサヒアカマダラセンチコガネ

体長約9 mm, 暗褐色でやや長い褐色毛を装う種であ

る。石垣島から発表されたが、後に墾丁からも記録された。(図1-1) 農業試験所標本中にも見出された。

Ochodaeus xanthomelas (WIED.)

タイワンアカマダラセンチコガネ

加藤は上記和名で *Ochodaeus* sp. として本種を図示している。なお本種は墾丁のほか、埔里附近、新竹、Piywai 等の記録がある。(写真5, 図1-2)



写真5 *Ochodaeus xanthomelas* (WIED.)

Ochodaeus maculatus interruptus Y. KUR.

アカマダラセンチコガネ(先島・台湾亜種)

黒沢は石垣島, 台湾から本亜種を書いている。また三輪が *O. maculatus* として, 甲仙埔, 阿里山, 恒春, 台東, その他を記録している。(図1-3)

Ochodaeus formosanus Y. KUR.

タカサゴアカマダラセンチコガネ*

体長8~9 mmで褐色をし灰褐色毛を装う種である。黒沢は烏来, 眉原をあげている。(図1-4)

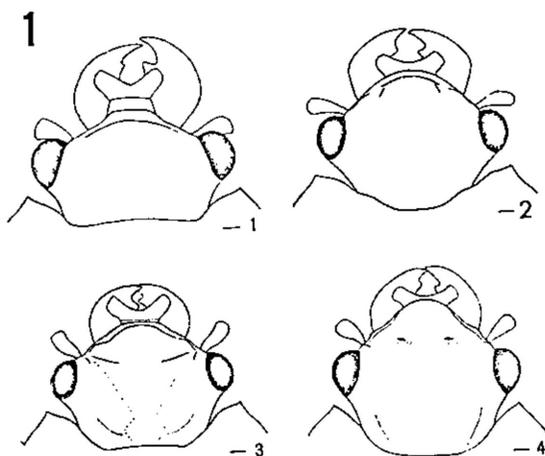


図1 台湾産 *Ochodaeus* の頭部(黒沢, 1968より)

- 1-1. *Ochodaeus asahinai* Y. KUR.
- 1-2. *O. xanthomelas* (WIED.)
- 1-3. *O. maculatus interruptus* Y. KUR.
- 1-4. *O. formosanus* Y. KUR.

Scarabaeinae タマオシコガネ亜科

本亜科には多数の種が含まれ通常いくつかの族に分けられている。また、学者によっては本亜科を科に、族を亜科に昇格させるなど区分の変更を試みているが、ここでは従来から日本で多く採用されているARROW(1931)

の区分に従っておく。

台湾産 Scarabaeinae の検索

- 1(2) 中基節は広くは離れない。中脛節には1端刺を有する。
Scarabaeini
- 2(1) 中基節は広く離れている。中脛節には2端刺を具える。
- 3(6) 後附節の基節は第2節よりかなり長い。
- 4(5) 後肢はきわめて長く附節は糸状。
Sisyphini
- 5(4) 後肢は極端に長くはない。附節は多少なりとも平らで次第に細くなる。
Coprini
- 6(3) 後附節基節は第2節に比しそれほど長くない。
Panelini

1. Scarabaeini

台湾から2属の記録があるが、*Scarabeus* の分布は疑わしい。

台湾産 Scarabaeini の検索

- 1(2) 前附節を欠く。上翅肩部後方で切り取られない(体が露出しない)。
Scarabeus L.
- 2(1) 前附節を有する。上翅は肩部後方で切り取られる。
Gymnopleurus ILL.

1-1 *Scarabeus* タマオシコガネ属

**Scarabeus (Kheper) erichsoni* HAR.

コウシュンタマオシコガネ

体長21~26 mm, 暗褐色で緑~銅色を帯び、前胸背が密に強く点刻されている種である。三輪のカタログ(1931)には載っていないが、三輪・中条のカタログ(1939)および加藤(1933)が図示している。加藤は『恒春地方に産するも稀』としている。また、農業試験所の標本中の教頭の *Scarabeus sacer* を見つけたがラベルは単に Formosa とあるだけで、多くの個体は大陸の地名が記されていた。おそらく Formosa はラベルの付けまちがいのと思われる。

1-2 *Gymnopleurus* ヒラタマオシコガネ属*

野村(1973)は *Paragymnopleurus* 亜属の3種を記録している。三輪・中条(1939)はその内の2種と、疑問符付きで *G. (s. str.) gemmatus* を記録し、加藤はそれを図示しているが *gemmatus* の分布は疑わしい。

Paragymnopleurus 亜属の3種はいずれもよく似ており同定は容易でない。人糞を好み灯火に飛来する。

台湾産 *Gymnopleurus (Paragymnopleurus)* の検索

- 1(4) 中脛節には2端刺を具える。前胸背後角はたいいてい、わずかに広がり突出するのみ。
- 2(3) 前胸背の両側はほとんど角ばらない。黒色で背面は絹状光沢があり、特に前胸背は上翅より滑らか。
melanarius HAR.
- 3(2) 前胸背両側は発達し強く角ばる。黒色だが紫銅色を帯びることが多く、背面はほとんど光沢なし。
ambiguus JANSS.

- 4(1) 中脛節は1端刺。前胸背後角は広がり角ばって突出する。やや小型で黒色。光沢なし。
sinuatus (OLIV.)

Gymnopleurus (Paragymnopleurus) ambiguus

JANSS. タイワンタマオシコガネ*

台湾より記載された種である。やや大型で紫銅色を帯びている。加藤や平山の図鑑で *G. assamensis* としていたものは本種と考えられる。なお BALTHASAR は *G. assamensis* を *G. (P.) sinuatus* の亜種としている。霧社、南山溪などで採集されている。(写真6)

G. (P.) melanarius HAR. ツヤタマオシコガネ

墾丁や南山溪で採集されているほか、三輪は台東を記録している。(写真7)

G. (P.) sinuatus (OLIV.) クロタマオシコガネ

タマオン活動は主に午前中に多く見られた。台湾各地に広く分布し、蘭嶼や緑島からも得られている。(写真8) 三輪も各地から記録。

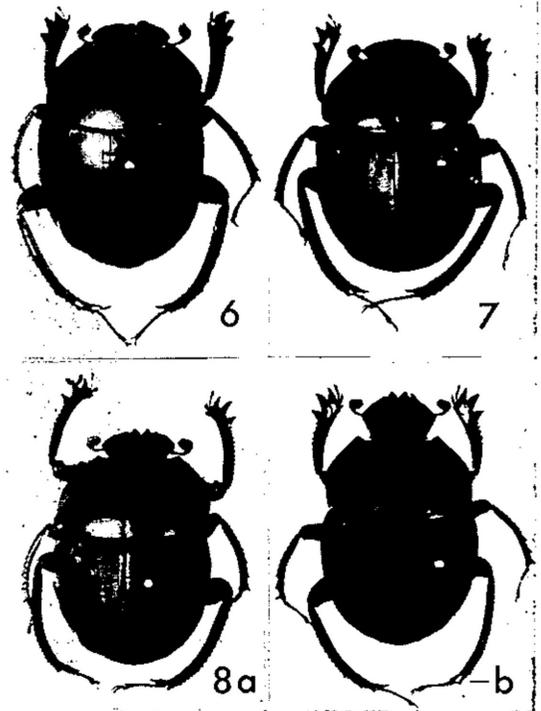


写真6 *G. (P.) ambiguus* JANSS.

写真7 *G. (P.) melanarius* HAR.

写真8 *G. (P.) sinuatus* (OLIV.) a-♂ b-♀

**G. (s. str.) gemmatus* HAR. コブタマオシコガネ
三輪は *G. granulatus* として六龜から記録しているが実際に分布するか否かは不明。

2. Sisyphini

Sisyphus アシナガタマオシコガネ属

三輪・中条 (1939) は疑問符を付けながらも 4 種を記録し、加藤はそのうち 1 種を图示しているが分布は疑わしい。農業試験所では *S. bowringi* をのぞきすべて検することができたが、いずれも素木のラベルが付けられた標本である。

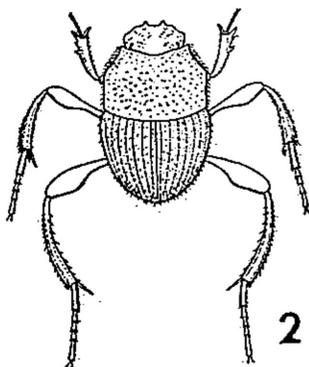


図2 *Sisyphus longipes* OLIV. (ARROW, 1931 より)

**Sisyphus indicus* HAR.

インドアシナガタマオシコガネ

記録：埤里 (三輪)

**Sisyphus bowringi* WHITE

ボウリングアシナガタマオシコガネ

記録：恒春 (三輪) (図一加藤)

**Sisyphus longipes* (OLIV.)

アシナガタマオシコガネ

記録：Akau (三輪) (図-2)

**Sisyphus thoracicus* SHARP

コウトウアシナガタマオシコガネ

記録：紅頭嶼 (三輪)

3. Panelini

3-1 *Panelus* マメダルマコガネ属

野村 (1973) は 2 新種を記載している。三輪・中条 (1939) は *P. parvulus* を記録しているが前 2 種のいずれかと同一かもしれない。

Panelus crenatus NOM.

コンテイマメダルマコガネ*

背面はほとんど無毛で上翅は長幅同等。尾節板はこまかく点刻され、弱く縦に突出することなどで次種と区別できる。体長約 3 mm。壟丁で得られている。

P. maedai NOM. マエダマメダルマコガネ*

背面は極めて短かい毛を装う。上翅はわずかに巾広い。尾節板は粗く密に点刻され、こまかい毛を装い弱く突出する。体長 2.7~3 mm。奮起湖で得られている。

**P. parvulus* (WATERH.) マメダルマコガネ

記録：港口 (三輪)

3-2 *Paraphytus* ダルマコガネ属

本邦と共通の 1 種が記録されている。

Paraphytus dentifrons (LEWIS) ダルマコガネ

古くは三輪 (1931) がツツガタコガネの和名 (あまりこの名は体をあらわしていない) で、新しくは中根 (1963) が記録している。

記録：紅頭嶼 (=蘭嶼) (三輪)

4. Coprini

台湾から記録のある *Coprini* を ARROW (1931) により区分すると次のようになる。

台湾産 *Coprini* の検索

- 1(2) 前胸背には 2 条の側隆起を具える。 *Synapsis* BATES
- 2(1) 前胸背には 1 条の側隆起を具える。
- 3(4) 前胸背基部の中央附近に 2 個のくぼみを有する。♂♀とも前跗節を欠く。 *Onitis* F.
- 4(3) 前胸背は基部中央附近に 2 個のくぼみなし。
- 5(4) 小楯板を欠く。
- 6(9) 上翅は 2 側隆起を具える。
- 7(8) 触角の第 1 節は光る。 *Heliocopris* BURM.
- 8(7) 触角は全体に軟毛を装う。 *Catharsius* HOPE.
- 9(6) 上翅は 1 側隆起を具える。
- 10(1) 前胸背は基部に溝を具える。 *Copris* GEOFF.
- 11(0) 前胸背基部に強い溝はない。
- 12(3) 前脛節先端は内縁に対して直角で、さらに前胸下面角はえぐられる。 *Caccobius* THOMS.
- 13(2) 前条件のいずれか、または両方とも欠ける。 *Onthophagus* LATR.
- 14(5) 小楯板を有す。
- 15(6) 上翅は後縁前で縁毛を装わない。 *Liatongus* REITT.
- 16(5) 上翅は後縁前で縁毛を装う。
- 17(4) 腹節の両側は上方に露出。 *Oniticellus* SERV.
- 18(7) 腹節の両側は上方に露出しない。(注) *Drepanocerus* KIRBY.

(注) BALTHASAR (1963) によれば *Drepanocerus* は、しばしば小楯板が完全に見えない場合があるという。その場合は上記の検索は具合が悪いのだが、台湾から記録されている種はよく見えるので一応このままとした。

4-1 *Synapsis* オオヒラタダイココガネ属*

Copris-group としては大型でやや扁平な体形で、♂♀の差はほとんどない。従来 1 種が知られていたが、最近もう 1 種分布していることが分った。

Synapsis davidi FRM. ダビデダイココガネ

大型 (28~33 mm) で前胸背に低い大きい横隆起を具える。海拔 500~1500 m の山地に生息し、牛糞や人糞に來集する。南山溪や霧社で見られ、また三輪は恒春を記録している。成虫越冬もする。なお、益本 (1973) の営巣観察報告がある。(写真 9, 10)

S. yama GIL. ヤマダイコクコガネ*

前種より小型 (27~29mm) で前胸背は単純なのですぐ区別がつく。南山溪で採集されているがきわめて少ないようである。加藤が前種の♀として図示しているのは本種である。(写真11)



写真9 *Synapsis davidi* FRM.
写真10 *S. davidi* の育児球 (中央に2個見える)
写真11 *S. yama* GIL.

4-2 *Onitis* ヒラタダイコクコガネ属

中型で長卵形をしており、前胸背が大きく、♂♀共に前跗節を欠く。アジア南部から南ヨーロッパ、アフリカにかけて分布する。台湾から2種が三輪(1931)によって記録されたが疑わしい。



写真12 *O. philemon* (F.)
(BALTHASAR, 1963より)

**Onitis falcatus* (WULFEN)

ホリシャヒラタダイコクコガネ

記録: 埤里 (三輪) (図一加藤)

**O. philemon* (F.) フィレモンヒラタダイコクコガネ

記録: 高雄 (三輪) (写真12)

4-3 *Heliocopris* ナンバンダイコクコガネ属

本属は大型で、がっちりとした体格をし、頭胸背に角~隆起を具えているものが多く、アフリカを中心にアラビアやインド、ジャワ等東南アジアにかけて分布し、ゾウの分布と一致しているといわれている。台湾から1種の記録があるが、真に分布しているとは考えにくい。

Heliocopris midas (F.) ミダスダイコクコガネ
農業試験場の標本は素木のラベルで、地名が記されていない。

記録: 恒春 (三輪) (図一加藤) = ナンバンダイコク

4-4 *Catharsius* タイワンダイコクコガネ属

Copris にきわめて近いグループで、東南アジアからアフリカまで広く分布する。台湾では *C. molossus* が各地で普通に見られるが、最近では記録にある2種の分布が確認されていない。

Catharsius molossus (L.) タイワンダイコクコガネ
体長23~40mm, 光沢の鈍い黒色をし、頭胸背には角~隆起を具えるが、個体差がある。牛糞を好み直下に10~40cmの深さの穴を掘り糞を運び込む。燈火にも飛来する。台湾本島のほか蘭嶼などからも採集されている。(図-3)

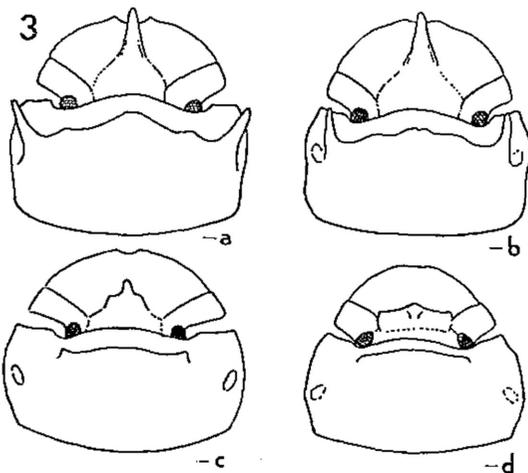


図3 *Catharsius molossus* (L.) a~c-♂, d-♀
(BALTHASAR, 1963より)

**C. pithecius* (F.) ピテシウスダイコクコガネ

前種と同大で、よく似ているが♂の頭頂の角は先端に向うにつれ前方へ曲っている。(図4-2)

記録: 阿里山 (三輪) (図一加藤) なお、同試験場の標本は頭部が欠落していて、同定困難であった。



写真13 *C. javanus*
LANSEB.

また、三宅氏所蔵の VI-1941, Y. YANO も本種と思われる、台湾に分布するものと考えられる。

C. javanus LANSB. ジャ
ワダイコクコガネ

体長16~22mm, 黒色で絹
状の鈍い光沢を有し、頭頂に
1角と、前胸背前方に1対の
大隆起を具える。(写真13)
(図4-1)

記録: 魚池, 台南, 安平 (三
輪)

農業試験場の標本では、三
輪のラベルで太平山, 台南,
クラルの個体を検した。ま

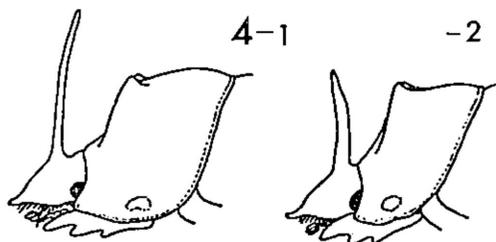


図 4-1 *Catharsius javanus* LANSB.
-2 *C. pithecius* (F.) (BALTHASAR, 1963 より)

4-5 *Copris* ダイコクコガネ属

三輪・中条 (1973) は6種の *Copris* を記録している
が、野村 (1973) はそのうちの3種と新たに1種の分布
記録を加えた。また、加藤の図鑑にはサンボンダイコク
という和名の不明種を含め7種が図示されているが、戦
前の記録は検討と整理が必要である。

Copris (s. str.) *tripartitus* WATERH.

ヒメダイコクコガネ

GILLET (1921) は台湾から、頭部の角の基部に鋭く
大きい歯状突起を有する, var. *formosanus* を記録し
ているが、はたして亜種的なものか否かは不明である。
南山溪で得られているほか、鳳凰山 (三輪) の記録もあ
る。

C. (s. str.) *fukiensis* BAL.

フッケンダイコクコガネ*

野村 (1973) が新記録したものであるが、*C.* (s. str.)
acutidens によく似ているので、古い記録では次種と混
同されている場合もあろう。奮起湖で得られている。

**C.* (s. str.) *acutidens* MOTS.

ゴホンダイコクコガネ

三輪は台北、七星屯、甲仙埔から記録し、加藤の図鑑
には台湾があげられている。

**C.* (s. str.) *sinicus* HOPE

マルガタコダイコクコガネ

加藤は上記の和名で図示しているが分布の真疑は不
明。東南アジア・中国南東に分布。

C. (s. str.) *confucius* HAR.

タカサゴコダイコクコガネ

三輪 (1931) は *C. confucius* タイワンコダイコク、
三輪・中条 (1939) では *C. confucius* および同和名、
加藤 (1933) は *C. confucius* タカサゴコダイコクとし
ている。なお加藤が図示しているもののうち合は明らか
に本種ではない。

記録: 眉原, 安平, 恒春 (三輪)

農業試験所では三輪の眉原16-VII-1937を検したが前述
O. fukiensis の誤りではないかと思う。

**C.* (s. str.) *ochus* MOTS. ダイコクコガネ

加藤の図鑑に分布地として掲げられている。

C. (*Paracopris*) *cariniceps* FEL.

スジアシダイコクコガネ

体長11~13mm, 光沢がなく、頭楯前縁は三角に切れ
込み、両眼間に中央部間瘤状に高まった隆起を具えてい
る。牛糞、人糞に集まる。主に夏季に出現するが次種
より少ない。墾丁や南山溪、蘭嶼等で得られたが、三輪
は Sokutsu を記録している。(写真14)

C. (*Microcopris*) *propinquus* FEL.

マメダイコクコガネ

体長10~11mm, 前種にやや似るが光沢があり、上翅
の条溝も明らかである。人糞で得られる
が、墾丁では冬期でも
活動していた。このほ
か、南山溪、霧社など
で得られている。(写真
15) 三輪らも記録して
いる。



写真14 *Copris cariniceps*
FEL.

また、*C.* (*M.*) *reflexus* (F.) コウトウマメ
ダイコクコガネの記録があるがこれは、前述の *C.* (*M.*)
propinquus に酷似する。三輪は紅頭嶼から記録してい
るが、前種の可能性が大きい。最近の標本の中からは本
種を見出せない。

C. (*M.*) *propinquus* は頭楯中央が小さく深く彎入
し両側はまるまった歯状、上面はごくわずかに金属光沢

を帯びるのに対し、*C. (M.) reflexus* は頭楯中央がより広く三角に彎入し、両側はかなり鋭く尖り、頬の外角は中央前で鈍くまるまり、また上面がまったく黒色である点などで区別されているという。(図5)

(注) *Copris* の亜属については、一応 BALTHASAR(1963)に従ったが、まだ必ずしも充分とはいえない。

台湾産 *Copris* の亜属の区別点

1. 中～大型(まれに小型)。黒色でたいてい光沢があり、体は強くふくらむ。♂♀の性差は顕著。肢は強壯、中後脛節は先端に向け強く広がり、また中後附節も強壯で基部は三角に広がる。

Subgenus *Copris*

2. 中～小型。わずかに膨隆するか、やや扁平な種を含み、上面の光沢はないか弱く、黒～黒褐色～暗褐色。肢は原亜属にくらべ、ほっそりしている。頭楯は、しばしば特異な突起を有することがある。

Subgenus *Paracopris*

3. 小型で強くふくらむ。光沢が強く、黒色で金属光沢を帯びる場合がある。頭楯は普通。前胸背前角部下面はえぐられる。

Subgenus *Microcopris*

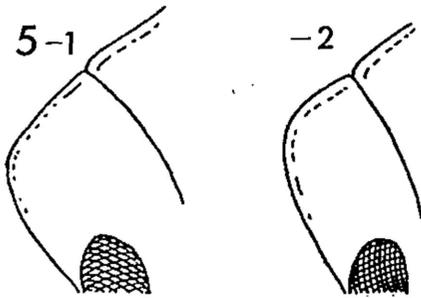


図 5-1 *Copris reflexus* (F.)

5-2 *C. propinquus* F. (BALTHASAR, 1963 より)

4-6 *Liatongus* ツノコガネ属

2種の分布記録があるが、そのうちの1種の分布は疑わしい。

Liatongus phanaeoides (WEST.) ツノコガネ

台湾のツノコガネは日本のそれにくらべ、概して小型、やや細長で体のつくりが軟弱、体下が赤味がかかる。牛糞を好み、500～2500mの山地で見られるが、高地の個体は日本のものによく似て大型で黒色がかかる。冬期でも活動していた。なお三輪の記録では平地があげられているが著者は平地では本種を見たことがない。

L. vertagus (F.) クリイロツノコガネ

体長7.5～11mm、暗褐色で頭部と前胸背前方に先端が二又状の角を具える種である。三輪の埔里の記録と、加藤の図鑑で *Oniticellus vertragus* として図示されているものがある。(図-6)

4-7 *Oniticellus* ツノナシツノコガネ属*

中～やや小型で、長形、上翅はやや平圧され腹部の一

部を露出させ、汚黄色～黄褐色、または褐色で稀に黒色で明るい色に暗色の紋を装うこともある。小楯板は明らかで上翅は後縁前で剛毛を具える。♂♀の性差はほとんどない。アフリカからヨーロッパ、アジアおよびキューバ等から知られるが、台湾の記録には疑問がある。

**Oniticellus pallipes* (F.) ゴマフツノコガネ

体長6.5～9mm、橙黄色で暗色点紋を有する。ヨーロッパからアジアまで広く分布する種である。三輪の恒春の記録がある。(図7)

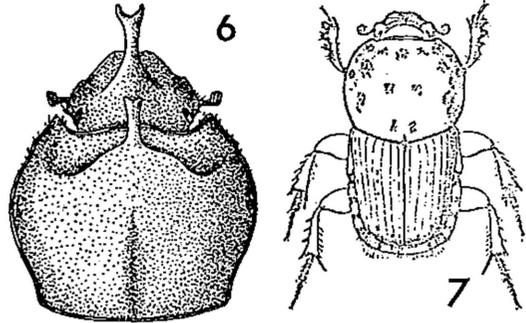


図6 *Liatongus vertagus* (F.) の頭胸背 (BALTHASAR, 1963 より)

図7 *Oniticellus pallipes* (F.) (ARROW, 1931 より)

4-8 *Drepanocerus* オニツノコガネ属

中～小型で長型。上面は平圧され、表面は粗造、所々に直立した鱗状毛を装う。小楯板はしばしばよく見えないう、明確でない(前述)。アフリカからアジア(インド、中国など)まで分布する。加藤はオニマグソコガネの和名で1種を図示しているが、実際に分布するかどうか分からない。

Drepanocerus arrowi BAL.

タカサゴオニツノコガネ*

体長8～12mm。前脛節先端は切断状で、外角は小さな歯状を呈し、脛節外縁は4歯を具えるように見える。前胸背には特にきわだった角や隆起を具えない。南山溪で得られている。(図8)

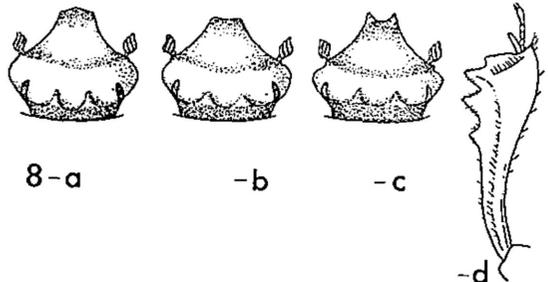


図8 *Drepanocerus arrowi* BAL. a-♂大型, b-♂小型 c-♀, d 同前肢節 (BALTHASAR, 1963 より)

(オニツノコガネ属次回へ続く)